

我々証券界は帝に絶交なる中氏の公債として五百万中氏の主要交通機関として
の使命を完全に行すべく専念して居る打柄 斯くの如き不見識なる事案を果
敢されるは悉くは中電の前途誠に甚しく堪えざるものありと共ト中電本業の株
命に押引おさゞる憂ひありてありませぬ
惟だ中電今日の財政難の困り探入東洋鉄道株天合社の買収に初り欠未天候
火災の一大打撃、知水電鉄の管内東入れ者電の延長地不飲の本現バス回りの
急激なる減収等々相俟つて近代理事者あり放漫なる経営方針が中電を今日の窮
状へ進んぬる重要なる役割を演じたのでありませぬ
然し作ら大分一、二年より昭和三年当時までの好況時代に於ては蓄積なる本業
によつて而も高給多け取りまづモのであるが今日の如く電車収入年額二千万圓
を割る不況時に至つては斯る放漫なる方策は絶対許されず、うでありませぬ
然りば如何にして中電の更生を計るべきや、問題がありませぬ、之は然りませぬ
どス改善勿論可なるものみによつては分述の通り更生の策を考へる事は絶対不
可能であり故により根本的を尤う如き項目を實行す事と依らざる又中電更生
が実現され得るものと確信します

一 公債一億圓を本中電者へ授課すること

一 鉄道省より損差補償金とすること

一 為替差損金と國庫より補償せしめること

一 電力自給により高價なる電力料を節減すること

以上の諸向題を解決するならば年額約一千五百万圓程度の恒久財源が捻出されるの
でありませぬ従つて之等の案件解決を早急に附して中電將來を決定的に悲觀する

事は美に緊要的であつて我々のとらざる抄であります
此の意味に於て急速に本向題を解決し全証券界の不安を降き以つて交通証券從
業員と一々の使命を免れせしむべきなりと信じ茲に滯載を以て意見書を提出し
申費意を切望する次第であります

昭和九年八月三十一日

以 上